

政策名	安心3 最先端のがん医療など総合的ながん対策の推進
-----	---------------------------

政策目標	県内における国内最高水準のがん医療の提供や、がんの早期発見体制の強化、患者支援体制の充実などの取り組みにより、がんによる死亡の減少やがんになっても安心して暮らせる社会が構築されていること。
------	--

＜現状と課題＞

- 県内では年間3千人以上の方が、がんで亡くなっており、死因の第1位です。また、がんの年齢調整死亡率は年々減少しているものの、現計画の目標値には達していない状況です。特に、本県の乳がん検診受診率は全国平均よりも高いものの、働く世代の女性の乳がん罹患率は高く、また、乳がん年齢調整死亡率も全国平均を上回っています。そのため、がん予防に関する知識や早期発見の重要性について普及啓発を行うとともに、がん検診受診率のさらなる向上を図る必要があります。

【がんの75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)：85.2(H19)→81.5(H23)→74.1(H26)】
 【40～64歳罹患総数のうちの乳がん罹患割合(H23)：33.5%(富山県)、28.1%(全国)】

- 県内では、10のがん診療連携拠点病院(国指定7+県指定3)が連携協力して二次医療圏毎に患者のニーズに沿った医療を提供できる体制を構築し、中でも県立中央病院においては、県がん診療連携拠点病院として、最先端のがん医療を提供しています。

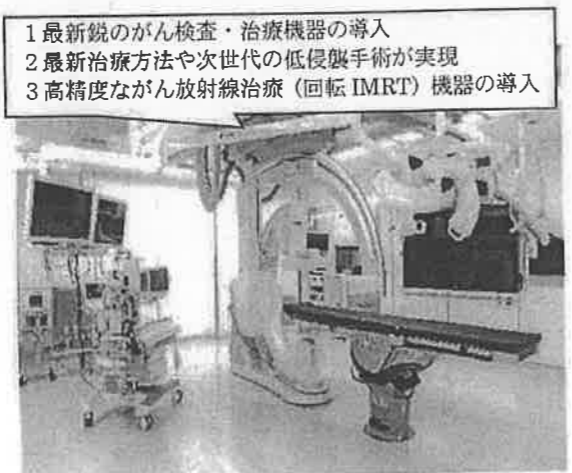
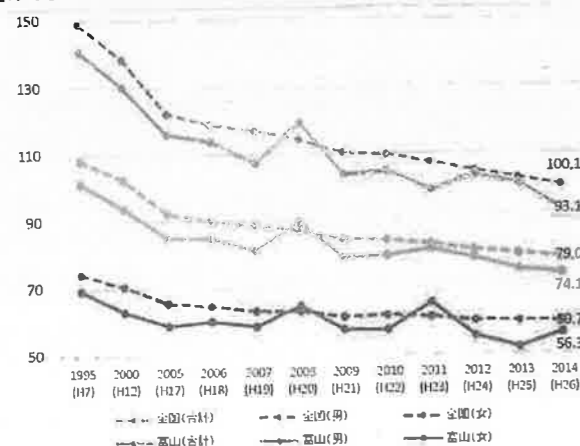
今後も、質の高い医療を確保するため、がん診療連携拠点病院間の連携を強化し、専門性の高い医療従事者の養成、診断された時からの緩和ケア提供体制の充実を図る必要があります。

- がん患者を支援するため、平成25年に「富山県がん総合相談支援センター」を設置し、医療相談に加え、心理、生活、介護、就労など、がん患者やその家族の様々な相談に応じえています。

【がん総合相談支援センター相談内訳(H27)：不安や精神的苦痛20%、入院方法・転院19.0%、治療11.0%】

一方で、がん患者からの相談ニーズが多様化する中、特に働く世代の女性のがん患者は家庭、育児や就労等の様々な課題を抱えており、苦痛の軽減とともに療養生活の質の向上を図るため支援体制の強化が必要となっています。

【がんの75歳未満年齢調整死亡率の推移】



＜取組みの基本方向＞

- がんによる死亡者数を減少させるには、県民自らが、がんの原因や危険因子に関する正しい知識を持ち、がん検診の定期的な受診による早期発見に努めることが重要であることから、働く世代の罹患が多い女性をはじめとしたがんの早期発見や早期治療の推進
- 県の拠点病院である県立中央病院を中心に、県内で手術療法、放射線療法、化学療法、さらにこれらを組み合わせた集学的治療を実施していくため、それぞれの治療法を専門的に担う医療従事者の育成やがんと診断された時から切れ目のない緩和ケアの提供など、質の高いがん医療の確保
- がん患者やその家族からの相談ニーズが多様化する中、適切な情報提供と相談支援が行われ、がん患者の意向により家庭や地域での療養が選択できる体制の充実を図るなど、患者支援体制のさらなる充実強化

＜主な施策の項目と具体例＞

1. 予防の強化とがん検診受診率向上などの早期発見の推進
 - ・ 受動喫煙防止対策や、がん予防のため望ましい生活習慣の実践に向けた普及啓発の更なる推進
 - ・ 節目年齢や女性の重点年齢検診の普及等のがん対策の充実をはじめ、科学的根拠に基づく効果的な受診勧奨等、がん検診受診率向上に向けた市町村の取組みへの積極的な支援
 - ・ 検診機関や協定締結企業など関係機関と連携を強化し、がん予防に関する知識や早期発見の重要性に関する普及啓発活動の一層推進 など
2. 質の高い医療の確保
 - ・ 最先端医療を提供する県立中央病院を中心に、がん診療連携拠点病院が連携協力したがん診療体制の充実
 - ・ がんと診断された時から切れ目のない緩和ケア提供体制の整備
 - ・ 緩和ケア研修やがん看護臨床実践研修の実施など、専門性の高い医療従事者の育成 など
3. 患者支援体制の充実
 - ・ 県がん総合相談支援センターとがん診療連携拠点病院との連携による、患者支援体制の充実
 - ・ 患者団体等との連携の強化や、患者の不安や悩みの軽減のため、がんを経験した者によるピアサポートの一層推進
 - ・ がん患者の就労を支援するため関係機関等との連携を強化 など